

福井県におけるカワウの繁殖初記録

松村俊幸¹・小嶋明男²

カワウ *Phalacrocorax carbo* は、ペリカン目ウ科に属する全長約82cmの大型の海鳥で、留鳥または漂鳥として、本州と九州の限られた場所に分布し、海岸や湖沼に近い内陸の林で営巣し、近くの湖沼、河口、内湾などで餌をあさる(高野 1981)。また、本種はかつて本州各地で繁殖したが(清棲 1978)、1979年には、青森県(赤岩、市柳沼)、東京都(不忍池)、愛知県(鵜の山)、三重県(飯満)、大分県(沖黒島)等、全国で5~6カ所の繁殖地がみられるだけとなった(日本野鳥の会 1994)。その後、本種の個体数は増加し、現在の総個体数は2万羽前後と推定され、繁殖が確認されている主なコロニーは15カ所である(石田 1993)。

北陸地方の本種の繁殖は、新潟県において昭和の初めころまで、柏崎市、岩船郡、北蒲原地方で確認されていたが、その後は1962年3月に柏崎市岬町で1回記録されているのみである(新潟県野生鳥獣生態研究会 1982)。現在は、阿賀野川の中州に4月にも50羽を超える群れがとどまっているのが観察され、今後の動向が注目されている(本間 1994)。石川県と富山県では、おもに秋~冬に渡来し、繁殖はまだ確認されていない(富山県野鳥保護の会 1989、石川県自然保護課 1993)。福井県では、ウミウ *Phalacrocorax filamentosus* に比べ少ないが、おもに秋~冬に渡来する。繁殖の有無は明らかでないが、1976年5月には鯖江市氏家町のサギのコロニー内において数羽が観察されたことがある(福井県自然保護課 1982)。現在は、全国的な増加傾向と同様に、1986年頃から秋~冬に九頭竜川中流にまで群れが飛来するなど、県内の河川でよく見られる野鳥になった(松村 未発表)。これまでの1群の最大個体数は、1994年11月7日に九頭竜川の永平寺町鳴鹿~下浄法寺で観察された288+羽である(松村 1994)。

このようなカワウの近年の増加傾向の中、福井県でカワウの繁殖を初めて確認したので報告する。

本文に先立ち、文献をご教示下さった名古屋大学農学部森林保護学研究室の石田朗氏、日本野鳥の会研究センターの植田陸之氏に謝意を表する。

カワウの繁殖が確認されたのは、1994年6月26日、福井県大飯郡大飯町冠者島(35° 31'N, 135° 39'E)であった。冠者島は、小浜湾内にある陸地から約670m離れた面積約9,000m²、標高約34.7mの楕円形をしたお椀を伏せた形をした島であった(大飯町教育委員会 私信, 写真1)。植生は、高木層にスダジイ *Castanopsis sieboldii*、タブノキ *Machilus thunbergii* が、亜高木層にヤダケ *Pseudosasa japonica*、ヒメユズリハ *Daphniphyllum teijsmannii*、ヤブツバキ *Camellia japonica*、ヤブニッケイ *Cinnamomum japonicum* が、低木層にヒサカキ *Eurya japonica*、ヤブニッケイ、スダジイ、ヒメアオキ *Aucuba japonica* var. *borealis* が、草木層



写真1. 冠者島の全景（1994年6月26日，撮影：松村俊幸）。

Photo 1. Complete view of Kanjajima (Photo by T. Matsumura on 26 June, 1994).

にヒトツバ *Pyrrosia lingua*，ホソバカナワラビ *Arachniodes aristata* などが優先する暖温帯常緑広葉高木林である（香室・乾 1978，香室ら 1988）。

冠者島には，ゴイサギ *Nycticorax nycticorax* 約100羽，アオサギ *Ardea cinerea* 約20羽を中心としたサギのコロニーがあり，アマサギ *Bubulcus ibis* 3羽，コサギ *Egretta garzetta* 2羽も観察された。また，南南東斜面の標高7m，樹高2mのビワ *Eriobotrya japonica* において，クロサギ *Egretta sacra* のヒナが4羽確認された。

カワウは，島の周囲で採餌中の12羽の群れが最初に確認され，その後約130羽のサギ類と共に島の周囲を飛翔し，樹木へ止まる個体が観察された。そこで，その止まりが観察された樹木の位置を探索したところ，営巣を確認した。

営巣木は，島の最高点より約10m離れた標高約32mの西南西向きの斜面上にあるタブノキで，周囲のタブノキの中でも大きい木であった。確認した巣は4巣で，胸高直径12cmと27cmの2本に2巣ずつ架けられていた。巣は，ほぼ樹冠に位置し，地上からの高さは4巣とも巣の下部まで7.2mであった。

ヒナは，胸高直径12cmの2巣に1羽ずつ，27cmの2巣にそれぞれ2羽と1羽であり，いずれも成鳥と変わらない大きさで，巣の上で親鳥から給餌を受けるのが観察された（写真2）。福井県内でのカワウの繁殖記録は存在しないため（福井県自然保護課 1982），これが初記録となった。

冠者島から最も近いカワウのコロニーは，琵琶湖である。琵琶湖では，コロニーの消失後，1982年に竹生島で5巣が再発見されて以来確実に営巣数が増加し，1992年竹生島で590巣，伊崎で350巣が確認され，森林被害と魚類の食害が問題になっている（カワウ環境研究会 1993）。そのため，1993年より追い払い作戦が展開されている（朝日新聞 1994年1月



写真2. カワウの巢内雛（1994年6月26日，撮影：松村俊幸）。

Photo 2. Nestling of Common Cormorant *Phalacrocorax carbo* (Photo by T. Matsumura on 26 June, 1994).

12日の記事）。また，日本海側へのカワウの移動は，琵琶湖から若狭湾に出て山陰か北陸に向かうコースが示唆されており，カワウのコロニーの分散は，有害駆除が定期的に行なわれるようになった時期とほぼ一致している（カワウ環境研究会 1993）。このことから，冠者島で繁殖したカワウは，琵琶湖の群れの一部が定着したもので，琵琶湖における個体数の増加と駆除が影響していると予想される。一方で，愛知県知多半島のカワウのコロニーは1万羽を超え，現在はこれらの群れの一部が，伊勢湾，三河湾，木曽川などの大河川沿いに十数カ所の小型のコロニーを形成し，出現・消失を繰り返している（カワウ環境研究会 1993）。また，福井県内でも1993年には，小浜市南川，北川，敦賀市笙の川，黒河川において，春先にアユ *Plecoglossus altivelis altivelis* の稚魚，秋にアマゴ *Salmo masou macrostomus* などの放流稚魚を食害するという理由で有害駆除が行なわれ，12羽が駆除された。駆除申請期間は，5月下旬～7月下旬と9月下旬～12月初旬ころであり，県内の生息状況が近年秋～冬に限られていないことがわかる（福井県自然保護課 私信）。

カワウは人間生活との摩擦が大きい野鳥であり，そのため小規模のコロニーは不安定で，出現・消失を繰り返すことが知られていることから，冠者島の繁殖コロニーおよび福井県内の生息状況など，今後の動向が注目される。

引用文献

- 福井県自然保護課．1982．福井県の鳥獣．240pp．福井県自然保護課．
 本間隆平．1994．カワウ．野鳥新鴻 (91):1.
 石田朗．1993．日本のカワウの現状と問題点—森林に及ぼす影響を中心に—．森林防疫

42(8):145-148.

石川県自然保護課. 1993. 石川の動植物. 123pp. 石川県.

香室昭円・乾昭治. 1978. 第2回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書, pp.160-161. 福井県.

香室昭円・乾昭治・上坂正夫. 1988. 第3回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書 追加調査・追跡調査, pp.148. 環境庁.

カワウ環境研究会. 1993. 琵琶湖のカワウ. 12pp. 滋賀県自然保護課.

清棲幸保. 1978. 日本鳥類大図鑑Ⅲ, pp.945-947. 講談社. 東京.

松村俊幸. 1994. 野鳥情報. 福井県支部報 つぐみ (96):15.

新潟県野生鳥獣生態研究会. 1982. 新潟県鳥類目録. 新潟県野生鳥獣生態研究会会報 (6):2-21.

日本野鳥の会. 1994. 浜離宮庭園野鳥生息環境調査報告書, p.8. 東京都建設局南部公園緑地事務所.

高野伸二. 1981. 日本産鳥類図鑑. 474pp. 東海大学出版会. 東京.

富山県野鳥保護の会. 1989. 富山県の鳥類—自然環境管理計画策定のための調査—. 富山県自然保護課. 104pp.

1. 福井県自然保護センター. 〒912-01 福井県大野市南六呂師169-11-2

2. 三方町立明倫小学校. 〒919-13 福井県三方郡三方町藤井2-43

Breeding first records of Common Cormorant in Fukui

Toshiyuki Matsumura¹ and Akio Kojima²

At Kanjya island in Oi-cho, Oi-gun, Fukui breeding first records of Common Cormorant *Phalacrocorax carbo* was observed on June 26 in 1994. The two each nests was at a height of 7.2m, crown on a *Machilus thunbergii* that the diameter at breast height was 12cm and 27cm. Chicks before fledgling were observed one each on that the diameter at breast height was 12cm, one and two on that the diameter at breast height was 27cm. We pay attention to the trends for the future in Kanjya island and Fukui.

1. Fukui Nature Conservation Center. Minamirokuroshi 169-11-2, Ono-shi, Fukui 912-01

2. Meirin Elementary School. Fujii 2-43, Mikata-cho, Mikata-gun, Fukui 919-13